



2012年10月15日

関係各位

千代田化工建設株式会社
IR・広報セクション

太陽熱エネルギー事業分野強化へ ASE 社に資本参加

千代田化工建設株式会社(本社:横浜市 社長:久保田 隆)はアルキメデ・ソーラー・エナジー(ASE)社(本社:イタリア)と共同で進めている、高温溶融塩を熱媒とした次世代型太陽熱発電(溶融塩パラボリックトラフ型太陽熱発電:MSPT-CSP^{*1})関連事業の推進のため、ASE 社への出資を行いましたのでお知らせいたします。

千代田化工建設とASE社は、昨年6月にMSPT-CSP事業開発で協力していく提携協定を締結し、デモプラントの建設や実証運転への準備を進めてまいりました。今般、イタリアで2013年1月より太陽熱対象の電力固定価格買取制度(FIT^{*2})が施行されることとなり、多数の事業申請が準備される状況のもと、当社はMSPT-CSPに関連する事業分野開拓を加速し強化するため、ASE社に出資し15%の株式を所有いたしました。なお、残りの85%はASE社の親会社であるAngelantoni Industrie S.p.A.(アンジェラントニ社)が引き続き保有します。

ASE社は、MSPT-CSPの核となる技術である溶融塩集熱管を製造できる世界で唯一のメーカーであり、当社としては、この業界やビジネスに精通するASE社への資本参加をきっかけに、太陽熱発電所のEPC(設計・調達・建設)業務の受注とともにASE社の集熱管販売の拡大を目指しながら、太陽熱発電事業への参画も視野に活動を強化していきます。

また、イタリア国内におけるFITを活用した太陽熱発電のEPC及び各種の事業機会を足がかりに、将来的には、中東・北アフリカ地域へと事業拡大を図り、環境にやさしいエネルギーの供給に貢献してまいります。

*1: Molten Salt Parabolic Trough – Concentrated Solar Power

従来、熱媒に合成油を用いて、390℃付近で運転してきたパラボリックトラフ型太陽熱発電に対し、溶融塩を熱媒として550℃程度での高効率発電を可能とする、次世代型の太陽熱発電。

*2: Feed-in Tariff

以上

この件に関するお問合せ先: IR・広報セクション 伊藤 健 / 高橋 昌子

電話: 045-225-7734 Fax: 045-225-4962

URL : <https://www.chiyoda-corp.com/contact/index.php>